



シルバー人材センター通信

平成24年

第25号

1月25日発行

みなみえちぜん



日吉神社(湯尾)にて1月2日 浦安の舞が奉納されました。

発行・編集：公益社団法人 南越前町シルバー人材センター広報委員会

住 所：福井県南条郡南越前町今庄第 84号 24番地の1

TEL.0778-45-1102 FAX.0778-45-1851

E-mail : minamiechizen@sjc.ne.jp URL : <http://www.sjc.ne.jp/minamiechizen/>

会員の状況 [12月末現在]

総会員数 291名

男性会員 137名

女性会員 154名

「安全は 一声かける 中とりから」



新年のごあいさつ

理事長 嶋崎 洋

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は、当シルバー人材センターの事業運営に多大のご理解、ご協力を賜わり、厚く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、三月十一日には東日本大震災があり、又、急激な円高と我が国の経済状況は非常に厳しく雇用情勢も憂慮すべき状況になるなど激動の一年となりました。シルバー人材センター事業におきましても昨年に続き国の補助金の削減により厳しい事業運営を強いられました。

新たに取り組んだ企画提案型事業については部門によって困



新年のご挨拶

南越前町長 川野順万

新年、あけましておめでとうございます。

皆様方には、輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、私が町政を担わせて戴き、早や三年が経過致しました。この間、各種事業を始め町政全般にわたり温かいご支援とご協力を賜りましたこと、衷心より厚く御礼申し上げます。

昨年一月に大雪にみまわれ、三月十一日には東日本大震災と原発事故による未曾有の大災害が発生し、被害地の復旧・復興と原発の安全性など、災害に対する備えが大きく取り上げられました。本年も安全安心なまちづくりを始め、私の公約でも

難なものもありますが、子ども一時預かりの家、おんぶは当初の予想を大きく上回る実績となりました。その他の部門についても内容の検討を加え更なる事業の進展を図ってまいります。

そのような中、少子高齢化は確実に進んでおり、シルバー人材センターが果たすべき役割は益々重要であることは間違いなく、本年も行政と緊密な連携のもと「福祉の受け手から地域の担い手」を掲げ、基本理念である「自主」「自立」「共働」「共助」のもと

高齢者に対して、多様な就業機会の確保、社会参加活動の促進を積極的に図っていく所存ですので皆様方のご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。新年のごあいさつと致します。

ある「五つのまちづくり」を推進し、活力と魅力あるまちづくりに向け、引き続き全力で取り組んで参りたいと考えています。

又、昨年はシルバー人材センターが公益社団法人として新たなスタートを切り、今後、公益社団法人にふさわしい適正な事業運営と地域社会に一層貢献する事業展開が必要になると推察されます。

更に、団塊の世代がまもなく六十五歳に到達する時期を迎え、センターの役割は、こうした少子高齢社会の進行とともに益々重要になると考えます。

会員の皆様には、福祉の受け手から地域の担い手として今後様々な社会参加を通じ健康で生きがいのある生活の実現と地域福祉の向上に向け、尚一層のご活躍を期待しています。新年にあたりシルバー人材センターの益々のご発展と皆様方にとりまして幸多き年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



謹賀新年

- 理事長 嶋崎 洋
- 副理事長 上島 信敬
- 理事 飯田 春樹
- 理事 勝見 勝彦
- 理事 杉本 佳子
- 理事 田中せつ子
- 理事 寺尾 達雄
- 理事 堂下富美子
- 理事 中野 利雄
- 理事 橋本 登龍
- 理事 藤井彦四郎
- 理事 山寺 幸雄
- 行政担当理事 坂本 和彦
- 監事 安川清太郎
- 監事 山本 雄治
- 常務理事兼事務局長 井上 英之
- 事務局職員 海岸 満
- 関 洋子
- 山本 和美

本年も何とぞよろしく
お願いいたします



企画提案型事業

伝承技術・草履づくりと竹簾づくり作業を開始!

9月に刈り取った稲わらを使い草履を作り始めました。福井市内の保育園から園児の草履 400 足の注文を受けています。3種類(大・中・小)手のひらサイズ。また、地元の竹を使い竹簾の製作も始めました。昔ながらの竹簾は雪囲いなどに利用しますが、なかなか風情がありますよ。

経験のある方、興味をお持ちの方一緒に作ってみませんか? 手しごとは楽しいと好評です。



これだけ指を動かす仕事はまず少ないですよ。ボケ防止にはなるし(笑)仲間とおしゃべりしながら楽しくして。体は動かしてないけれど暑くて汗がでるほどです。多小なりとも福祉に貢献できると思いますよ(*^_^*)

~草履作り中のおはなしから~



竹簾をあむ作業台も会員さんの手づくりです。みんなで力を合わせて、すてきな竹簾が出来ました。

(河野村百十五年の軌跡より抜粋)

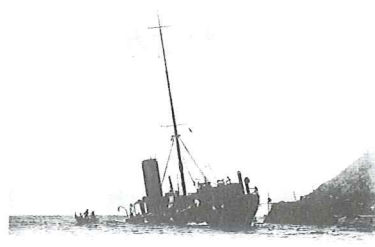
大正十三年十二月十日、山口県徳山港を出港して京都府舞鶴港へ向かう特務艦「関東」(二万二千トン、乗組員二百七人)が、激しい吹雪に見舞われ舞鶴港の沖はるか河野村の糠海岸へと迷走し、十二日午前八時頃座礁破船したのでした。事故の報せを受けた村民は全員で握り飯の準備や救助活動を手伝いました。

座礁した「関東」は午前十一時、胴体が二つに折れ、船首部分の前部が波浪の中へ沈みました。乗組員たちは座礁中に後部に移り、避難脱出のために陸上と艦をロープ(ホーサー)で結束する作業を繰り返してました。しかし、相変わらず吹き荒れる波により救助は困難を極めました。ホーサーを伝わたる最後の脱出が試みられましたが、ロープを握る感覚を失い、多くの乗組員は波に呑み込まれました。かろうじて岸にたどり着けた者が、凍死寸前の状態を糠の人たちに救われました。

ほとんどの乗組員は凍死・仮死状態の寸前でした。そんな乗組員たちを必死になって救ったのは女性たちでした。自らの肌身をもって乗組員の体を温め生死の淵から蘇らせたのでした。女性たちの献身的な救助活動は「人肌救助」と当時多くの感動を呼び村の人々の暖かさなどを物語り、今もそれが村(南越前町河野地区)の誇りとなって受け継がれています。



ふるさとでばなし
特務艦「関東」遭難
人々の心に受け継がれる精神



若狭町シルバー人材センターと交流

十二月十四日に若狭町シルバー人材センターの役員十五名が当センターを訪れ交流会を行いました。交流会では両センターの事業取り組みや、会員の増強、安全対策、就業機会の確保、企画提案型事業の展開等について意見交換が活発に行なわれました。若狭町では訪問介護事業の展開や安全就業に力点を置いているとのことでした。当センターの取り組みでは、昨年から始めた企画提案型事業の進捗や、会員の活動状況を報告いたしました。これからは、お互いに規模が似かよったセンターでもあり、交流が続けられることを願っています。

新入会員の紹介

- 東大道 林 勉さん
- 鋳物師 中村 収さん
- 大谷 向山 貢さん
- 大谷 向山 厚子さん
- 合波 窪田 恵美子さん
- 上野 山崎 光雄さん
- 牧谷 山内 紀一さん
- 以上 7名の皆さん

【十月から十二月までの加入者】
よろしくお願ひ
いたします。



お知らせ

INFORMATION

シルバーのつどい
「笑って歌って楽しく」の開催について

今年も企画提案型事業として次の要領で開催いたします。みんなで楽しいひとときを過ごしましょう。お友達お誘いの上ご参加ください。

開催日時 平成24年2月15日(水)
午前10時より

開催場所 南条保健福祉センター

行事内容 お楽しみにね

実行委員会にて検討中です。今年も歌ったり、体を動かして楽しみたいと思っています。

スキー教室の開催について

「介護予防」の一環として今回新しくスキー教室を開催いたします。ちよつとやってみたい！昔やったけど今は出来るかしら！なんて思っている方も多いのではないのでしょうか？シルバーのスキー教室で新しくチャレンジしましょう！

開催日時 平成24年2月23日(木)
午前9時集合

開催場所 今庄365スキー場

行事内容 シニアも無理なく楽しめる
スキー体験教室

費用は個人負担となります。

理事会報告

第六回理事会 (十月二十五日開催)

審議事項

- ①平成二十三年度上期決算報告及び監査報告
- ②新入会員の入会承認
- ③平成二十四年度職群別配分金について

報告事項

- ①委員会報告(安全・広報)
 - ②ボランティア活動報告
- 理事会終了後町長と語る会を開催

第七回理事会 (十一月二十五日開催)

審議事項

- ①委員会設置規程の一部変更について
- ②平成二十四年度事業計画について
- ③理事監事選考委員の選任について
- ④中期計画の見直しについて

報告事項

- ①子ども一時預かりの家実績報告

第八回理事会 (十二月十五日開催)

審議事項

- ①新入会員の入会承認
- ②地区別懇談会の開催について

報告事項

- ①理事監事選考委員会報告
 - ②選考委員長 寺尾達雄氏
 - ③中期計画見直し委員会報告
 - ④委員会報告(安全・広報)
- 各理事会で、月次事業実績報告及び企画提案型事業の進捗状況について事務局長より報告がありました。

編集後記

師走も押し迫ったある夜、ほんやりとテレビを見てみると、「ある作家の思い」と題する番組が放映されていました。その内容は、山形県出身の作家・井上ひさしさんが、生前「本は生きる力、子供たちの成長にとって大きな力になる」と、地域の子供たちに「本の読み聞かせ運動」を提唱したことが東日本大震災で実践され、その様子が生き生きと映し出されていました。

仮設住宅に避難している子供たちが「本を読み、その感想を大人たちに聴かせる」その交流が、特に「お年寄りの生きる支えになっている」というものでした。復興への先の見えない現状において、このテレビ番組は、私にとっては感動モノでした。

生涯初めての編集後記…何を書いてよいか悩んでいる私にとって、格好の材料を与えてくれました。

広報誌「みなみえちぜん」が、会員とセンターを結ぶ強い「絆」となることが、編集にたずさわる者の役割だと思えました。被災地の皆さんの事を思うとなか

なかな言いつらい言葉ですが、更なる復興への期待をこめ、「あけましておめでとう」
ごぞいます。

(広報委員 板本洋子)

